



目次

1. 巻頭言
2. 開放型登録医療機関紹介
3. 平成 27 年度第 2 回職員研修を実施して
4. 宮崎空港航空機事故消火救難訓練に参加して
5. 平成 28 年宮崎東病院合同新年会開催
6. 異動のお知らせ

国立病院機構の理念

私たち国立病院機構は、国民一人ひとりの健康と我が国の医療の向上のために、たゆまぬ意識改革を行い、健全な経営のもとに、患者の目線に立って懇切丁寧に医療を提供し、質の高い臨床研究、教育研修の推進につとめます。



宮崎東病院の基本理念

「主役は病める人」をモットーとして患者さんの人権を尊重し、良質かつ高水準の医療を提供します。

巻頭言

新しい扉

宮崎では暖かくて穏やかなお正月でした。新しい年を迎え、皆それぞれに心に期するものがあつたことでしょうか。大いに夢を見たいものです。

ところで、宮崎東病院にとって、今年はいよいよ新病棟が完成します。昨年 3 月に安全祈願祭を行い、建て替え工事が始まり、工程は順調に進んでいます。現在、5 階部分の床コンクリート打ちが終わり、鉄筋柱をさらに伸ばしています。予定では 7 月末頃に完成し、8 月には新病棟での業務が開始できるのではないかと考えています。それに先立ち、6 月から電子カルテの更新を行い新病棟の開始に備える予定です。

クリーンな療養環境の提供により、長年の懸念であつたハード面での問題はほぼクリアされます。次は中身、すなわち良質な医療の提供が問われます。当院では、医療の質の向上を目指し、院内各部署で QC (Quality Control) 活動を行っています。年間目標のテーマを掲げ活動を展開し、年末にその成果を発表しています。経営改善、業務の見直し、療養環境の整備、接遇などいずれも実践的な素晴らしい取り組みで、上位優秀チームは新年会で表彰されます。言うまでもなく、経営の健全化と良質な医療の提供は車の両輪です。大事なことは全職員が経営参画の意識を持つことです。同時に医療職を担うプロとして自己の健康・生活管理をきちんと行うことも重要です。

まさに今、宮崎東にとって新しい扉が開かれようとしています。新病棟完成と共に大いに存在感を発揮し、地域の中で信頼され、愛され、そして患者さんに優しい思いやりのある病院を目指していきたいと思つています。本年もご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。



院長 比嘉 利信

平成 27 年度 開放型登録医療機関紹介

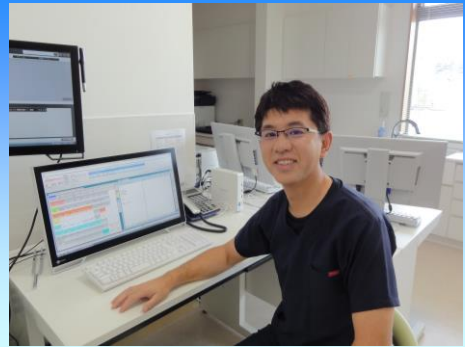
ふくどめ耳鼻咽喉科クリニック

院長 福留真二 先生

〒880-0916

宮崎市大字恒久 5913-1

TEL 0985-65-3387 診療科：耳鼻咽喉科



平成 27 年 9 月 1 日江南病院近くに新規開院しました。宮崎大学時代に内科の小玉剛士先生とは同級生で、二人とも大学は 2 つ目ということでとても仲良くさせて頂きました。すでに患者さんをご紹介して頂いています。看護師の竹中さんとも大学時代に一緒に仕事をさせて頂き、大変お世話になりました。数年前に母も入院でお世話になり、宮崎東病院にはいつも大変感謝しております。この度、開放型登録医療機関に指定して頂き、まことにありがとうございます。

平成 12 年に宮崎医科大学を卒業して耳鼻咽喉科に入局しました。医局員が少ないため、耳鼻咽喉科全般を幅広く勉強してきました。専門は耳科（難聴）になるかもしれませんが、副鼻腔炎やアレルギー性鼻炎、咽喉頭・口腔疾患、めまい、睡眠時無呼吸症候群など苦手領域のないように勉強してきたつもりです。特に副鼻腔炎は気管支炎や肺炎と密接に関係しており、すでに小玉先生から副鼻腔炎の治療の依頼を数名お受けしております。耳鼻咽喉科と呼吸器内科で連携して診察して、場合によっては手術による副鼻腔炎の改善が気管支炎・肺炎の改善につながることもまれではないので、積極的な治療を行っていきたいと思います。耳鼻咽喉科として入院が必要になる患者さんは、上記したような副鼻腔気管支症候群の急性増悪、急性扁桃炎・扁桃周囲膿瘍、めまいのひどい方などになってくると思います。鼻出血や急性喉頭蓋炎のように耳鼻咽喉科的な処置が必要になってくる患者さんの連携は困難かもしれませんが、点滴・安静で経過をみる事ができるような患者さんは連携が可能と思われます。逆にそのような疾患での入院加療をお願いしていいものなのかどうかをお聞きしてみたいです。

私が開業したこのエリアはこの数年開業ラッシュで、来年には皮膚科もできると伺っております。

近くには池田台、花山手、薫る坂、江南、大坪と住宅地が広がっており、この地域にお住まいの方にとっては、医療的に非常に便利な環境になってきております。おそらくこの地域にも宮崎東病院の患者さんはたくさんおられると思いますので、耳鼻咽喉科的な診察や加療が必要な方はご紹介して頂けると助かります。今後ともよろしく願い申し上げます。



※開放型登録医制度

宮崎東病院では平成 16 年 9 月より開放型病床を設置しております。

開放型病床とは、かかりつけ医師（開業医）と宮崎東病院医師（主治医）とが連携して、入院診療を行うというものです。患者様にとっては、かかりつけ医師との関係がとぎれることがないため、入退院への不安が軽減されます。

現在 90 医療機関の先生方にご登録いただいております。

平成27年度第2回職員研修を実施して



副看護部長
稲留 朱美

平成27年12月5日（土）に2回目の職員研修が開催されました。

今回の研修内容については、当院の患者サービス向上委員会の研修企画グループから接遇研修開催に関する提案があり、これをもとに院内職員研修実行委員会との合同企画により今年度の第二回職員研修として計画されたものです。

当日は、第一部接遇研修（講演）第二部医療安全研修（クレーム対応ロールプレイ研修）として計画され、69名の職員の参加がありました。まず実行委員長である松木医長の開会挨拶に始まり、その後、院長より「病院の経営及び建替整備状況について」の講演がありました。建替整備の基本方針や次期整備計画についての説明を受け、一職員として当院の経営に参画する機会になったと考えます。次に、第一部接遇研修として、今回、講師としてお招きした米岡光子先生より「クレーム対応で真価が問われる～接遇マナーが仕事の要」というテーマで講演をして頂きました。内容は接遇の基本からクレームの理解、対応のポイント及びプロセスに関するものでした。講演後の第二部では、医療安全管理係長の進行によりグループに分かれクレーム対応のロールプレイを実践しました。当院でも遭遇しがちである3事例についてロールプレイを行い、講師の先生から助言を受けました。後半にロールプレイするグループは、助言された内容を改善しクレーム対応のプロセスを意識して演技することで、講演内容が具体的に展開されていました。また、講演のまとめとして講師から「クレームは接遇力を磨いて予防し、誠意をもって共感し、チーム力で対応解決に導く」ことが重要であるとお話し頂きましたが、実演を通してクレーム対応は個人ではなく組織対応が基本であることも実感できていたようでした。参加した職員からは、楽しい研修だった、参加できなかった職員にも伝えたい、すぐ実践に活かせる、改善することが明確になった、スタッフ間で共通理解をもつことが大切等の意見が寄せられ、意識的行動ができているか自分をふりかえる機会になったようです。

医療機関での接遇は、患者さんやそのご家族からの評価において大きな位置を占めるものであり、サービスの良し悪しとクレーム対応の良し悪しには相関関係があること、小さな感覚のずれや価値観のずれがクレームに繋がる環境になることも今回の研修で学ぶことができたと思います。これからも患者さん、ご家族に安心と安全を提供できるよう、全職員が参加できる研修をめざしていきたく思います。

宮崎空港航空機事故消火救難訓練に参加して



1病棟副看護師長
宮脇 智

平成27年10月29日（木）13:30～15:30の2時間、宮崎空港で航空機事故消火救難訓練が行われました。当院からは、医療班として4名（白間外科部長、奥野1病棟看護師、渡名喜庶務係長、宮脇）で参加しました。

訓練当日は、医療班として当院を含めた5つの医療機関等が参加して行われました。

訓練の想定は、航空機が滑走路から外れ、炎上し、乗客と乗員に負傷者が発生している想定です。医療班は、その場で役割を決めて活動を行いました。当院から参加した4名は赤ポスト（重傷者）で負傷者の対応、黄色ポスト（中等傷者）での再トリアージ対応を行いました。私がいた黄色ポストでは、負傷者が次から次に運ばれてきました。訓練であったため、負傷者の状況（脈拍数、呼吸回数など）が書かれてあったため、その状況を見て確認することができました。しかし、実際にトリアージをしなければならない場合、負傷者の状況が書かれてあることはありません。その場での観察、状況の判断がとても重要となります。普段から、対応ができるような術を身に付けておくことが重要と思いました。

今回は宮崎空港での航空機事故消火訓練でしたが、宮崎県は太平洋に面しており、南海トラフでマグニチュード8～9の地震が起こる確率は30年以内で60～70%と予測されています。このような巨大地震が起こった場合、津波への対策も必要です。津波に関して、当院は、ハザードマップ上影響は少ないとされていますが、実際はどうかはわかりません。病院スタッフ、入院中の患者、面会者、近隣住民等への対応をどうするのか、平日頃考えておかなければなりません。災害が起こるかもしれないと準備をしておくだけでなく、災害が起こった場合にどう行動をするべきであるかも考えておく必要があると思いました。

平成 28 年宮崎東病院合同新年会開催



内科医師
谷岩 公博

さる 1 月 22 日、恒例の当院合同新年会が開催されました。この催しこそ当院唯一の合同の宴会なのです。例によって院長挨拶。ご存知の通り今年は悲願だった新棟完成の年で、8 月に運用開始予定とのことでした。防災の面から、高い建物が欲しいという地域の後押しもあり、ようやくここまでこぎつけました。合わせて医療の質の研鑽も怠らず行い、地域から信頼される病院を目指したいという挨拶でした。次に院長表彰。これは、この一年病院への貢献著しいグループあるいは個人を選ぶもので、今年は人材獲得プロジェクトおよび NEWS 宮崎東編集委員会が選ばれました。続いて、特に優れた QC 活動をした 3 つのグループが表彰されました。以下の通りです。

1) 外来・中材「病棟定数ダイエット作戦」

院内 SPD を導入し各病棟カート内の定数を見直した。その結果、業務効率やコスト削減が得られた。

2) 企画課「未収金マネージメント」

滞留債権の減少を目指し、地道な活動が評価された。

3) 療育指導室「3 病棟へいらっしゃい」

療養介護病棟増床にあたり、待機患者様に病棟の正しい理解と入所に関する不安の軽減を図るため、わかり易く楽しいパンフレットを作成し患者様・ご家族の好評を得た。

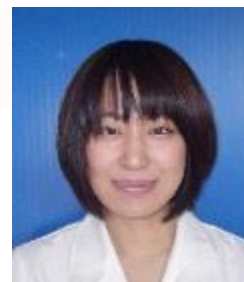
さていよいよ余興です。寸劇あり、ダンスあり、バンドあり。抱腹絶倒、なかには羞恥心をかなぐり捨てないと到底できない出し物もあったようです。皆さんの心意気にただただ脱帽でした。来年は、どんな余興になるでしょうか。期待いたしましょう。



異動のお知らせ

はじめまして。2016 年 1 月に宮崎大学医学部附属病院より赴任いたしました、北村瑛子と申します。

専門は呼吸器内科で入局 2 年目になります。宮崎東病院に勤務し、まだ日が浅いですが、院長先生、医局の先生方をはじめ、看護師や医療スタッフの方々にも温かく迎えていただき、充実した毎日を過ごしています。1 日でも早く環境に慣れ、結核や慢性呼吸器疾患の症例をたくさん経験したいと考えております。これからよろしくお願いします。



呼吸器内科医師
北村 瑛子

編集後記

年が明けてことのほか寒い日が続きます。奄美大島では百十何年かぶりで雪が降ったそうですが、人間の営みが原因の異常気象なののでしょうか。もしそうならば私自身もそれを引き起こしている人間の 1 人です。最近、第 40 代ウルグアイ大統領ホセ・ムヒカの本を読んでいます。彼は、世界でいちばん貧しい大統領といわれ、百姓をしながら公務にあたった人です。便利さ快適さを追求することと人の幸福は別物だと彼はいいます。当たり前だという人がほとんどでしょうが、実践できるかといわれるとそう簡単ではありません。もし興味がおありでしたら読んでみてください。

(編集委員 T)